

矢作川流域圏懇談会通信

海部会編 vol. 9



発行日：平成 25 年 12 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

第 16 回海部会WGを開催しました！

12月26日に第16回海部会WGを開催しました。平成25年度の活動とりまとめ、来年度の活動方針について、話し合いを行いました。



日時：H25年12月26日(木) 14:00～16:00
活動場所：西尾市役所 5F 52 会議室
参加者：15名(事務局含む)

主な会議内容

1：平成 25 年度の活動とりまとめについて話し合いました



【主な内容】

ごみ流木問題について

- ・調査結果を山川海で報告する機会がほしい。
- ・調査は、山部会、川部会の人と連携して、合同で行った方がよい。
- ・一度、漁船に乗ってもらってと海底ごみの様子が分かる。
- ・海のごみの状況をもっとアピールする方法を考えたい。



豊かな海の生物調査/干潟・ヨシ原について

- ・生物調査の結果をまとめて、交流に使うと良いと思う。
- ・干潟にダムが必要だということ、アピールする方法を考えたい。
- ・ダムの砂で人工干潟を造成して、生物のデータを取ると良い。
- ・なぜ干潟が必要だということ、伝えていくことが大事である。



海と人との絆の再生について

- ・以前のWGの中で、漁師さんの話を聞きたいという意見があった。
- ・山部会のように漁師さんに聞き書きをして伝えていく方法もある。
- ・食で海に呼びこむという方法もある。
- ・昔から、山地域の小学校と交流し、干潟に招待したり、山の下草狩りを行ったりして、三河湾を守ってきた。



話し合い中のご意見は裏面に記載しています。

2：来年度の活動方針について話し合いました



【主な内容】

来年度は、メンバーができるだけ主体的に動けるように、本当にみんながやりたいと思うテーマをみんなでつくっていくのが大事だと思う。

活動形態としては、流域圏懇談会全員参加のイベントを、各部会で提案してもらえると良い。2時間弱で終わるともったいないので、イベントと組み合わせても良い。

話し合い中のご意見は裏面に記載しています。

お問合せ

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107 / FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijnet.or.jp)までお送りください。



話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

ごみ流木問題

- 調査しっぱなしではだめ。調査結果を山川海で報告会のようなことをしないと。今年調査票もつくったので、山川海で連携して実施できるシステムがあると良い。(青木)
 - ▶ 実際の調査では、流木の発生源が分からず、山の人も来てほしいという話も出た。(松井)
 - ▶ 山部会や川部会の人に依頼をし、部会の行事に組み込んでもらった方が良い。(青木)
- ごみの量を三河湾全体で数値化して表せるようになると良いのではないかと。(天野)
 - ▶ 理想的ではあるが、科学的なデータをとるのは我々では難しい(青木)
- 一度、漁船にのってもらえると海底ごみの様子がわかる。(鈴木)
- パネルなどを作って人目につくようにすればいいのではないかと。(後藤)
 - ▶ ちょうど県でごみのパンフレット、ポスターを作成している。(国立)
- 普段の生活が海とつながっているかということアピールすることも重要である。(青木)



豊かな海の生物調査 / 干潟・ヨシ原再生

- 調査結果をまとめたものを使って交流する方向が良いのではないかと。(蒲原)
- 部会ごとにやっても意味がないので、他へアピールする方法を考えたい。(青木)
- ダムの砂を干潟へもってこられないか。干潟の造成実験ができればあと2年間楽しそうだ。(青木)
- どうしても干潟にダムの砂が必要だということを、いかにアピールすべきか。(松井)
 - ▶ アピールとして1番わかりやすいのは、人工干潟を造成して生物のデータをとることだと思う。(蒲原)
- 数年前の試験施工は、効果はあった。神奈川の茅ヶ崎では、半分ダム管理者、半分地元の負担で事業を実施しており、そのような仕組みをつくることは可能。(橋本)
 - ▶ なぜ干潟が必要なのかということから伝えていくことが大事である。(蒲原)

海と人との絆の再生

- 以前のWGで、大矢さんから漁師さんの話を聞きたいという意見があった。(水場)
 - ▶ 今山部会では、木づかいや担い手についての聞き書きをやっている。海の方でも漁師さんのいろんな話を聞いて、子供たちに伝えていく方法もあるのではないかと。(松井)
- 去年も食の話が出ていたが、食で海に呼び込むというのも良いと思う。(青木)
- 昔は、漁師のお孫さんの友達と一緒に船に乗ることがあった。(井上)
- 矢水協では、昭和53年から根羽村、平谷村等の小学校を一色干潟に招待している。一色排水路をきれいにする会、漁業婦人部の人と一緒に、海の状況を知ってもらっている。(天野)
- 山の下草刈にも行っていた。そのような交流をしながら三河湾を守っている(鈴木)



来年度の活動方針について

- 今年度は、事務局がメインでやっているところがあるので、できるだけ主体的に動けるようにしたい。本当にみんながやりたいと思うテーマをみんなでつくっていくのが大事だと思う。(青木)
- たとえば、鈴木さんに船を出してもらって、海底のごみを調査しても良い。(土屋)
 - ▶ 船に乗って初めて海の状態が分かる。(鈴木)
- 部会の数は来年もこのままで行けるか。(西原)
- 全員参加のイベントを各部会で提案してもらおうと良い。2時間弱で終わるともったいない。(青木)

ふりかえり

会議後にご記入いただいた、ふりかえりシートの内容の一部をご紹介します。



よかったと思うこと

行政の本音も出ていた。いわゆる枠組みの中だけの話に終わったのではなかったこと。/今年度行った活動についての反省、今後の行う予定についても、議論出来た事。/今後の方向性で色々な意見が出たこと。

よくなかったと思うこと

意見が多く出る活発な会議なので、もう少し時間に余裕があるといいと思います。

今後取り組んでいきたい活動など

ゴミについては、海・川・海の合同でWGを行う方向で行っていきとよい。/山・川・海で連携した集まりがあるといいかと思えます。意見交換、情報発信のため。/砂をどうやって、浜にもってくるか今後も議論を続けていく。/今日も矢作ダムの砂管理のためのバイパス計画の話があったが、影の部分も理解できる勉強会が欲しい。/矢作ダムの砂が三河湾に流れないでいることが、いかに三河湾の水環境に悪影響を与えているのかを、新聞広告などを活用して多くの人々にPRすること/流域圏での試験干潟実現に向けた動きをぜひ!

今後のスケジュール(予定)



次回 海の地域部会を1月14日(火)に開催します

今年度の活動のとりまとめを行い、来年度の活動方針について意見交換を行います。

